

最終報告書

令和3年度知立市まちづくり委員会

まちづくりまつり

評価点について

- ・ 委員のみでは難しかったイベントも地域の方々の協力もあり成功した

- ・ 地域の住民に有益な情報を共有することができた



まちづくりまつり

問題点について



- ・感染症対策設備がないとマスクなしの演目はできないと開催2か月を切ってから突然市から伝えられ予算のない委員会では準備できず、出演者の方にお断りし大変申し訳ないことをしたこと。

まちづくりまつり提言

- ▶ 「知立市は、新林町の例をモデルケースとし、市民の笑顔を取り戻すために市内町内会において街づくりまつりを開催すること」を提言します

まちづくり委員会

- ・ 人数が非常に少なく、市と委員での考え方に差異を感じた
- ・ 「市民全体の自主研究組織」を「予算は出さない」、「知立市職員は参加しない」と、負担を強いられる意味とは思わなかった
- ・ 委員の存在意義を疑う市の対応に疑問を感じた

まちづくり委員会提言

- ▶ 民主体の“自主研究組織”として活動を行う上で、市民の手でできる知立市のまちづくりについて研究をして、①最終的に市長にその研究内容を報告していただきます。そのため、②会議の進行、③日程調整、④企画運営、⑤資金調達、⑥人材集めなど必要な事柄を委員会主体で実施しなければなりません。また、委員会の会議内容は⑦原則公開なので、事務局に会議内容をご報告いただく必要があります。」

1.研究内容の報告は研究が終了した時点で行い、必ずしも年度末に行わなくてもよい。年度をまたぎ、**再任することを妨げず**、また単年希望者は年度末に退任するのも自由である。但し最低任期は原則として1年とする。報告した内容が市政に生かされたかを確認する。

2. **会議の進行**は委員長・副委員長が行う。

3. **日程調整**は会議内で行う。もしくは後日SNSグループなどで調整する。

4.基本的な**会議場所**は使用料を市が負担できる施設とし、予約システムを利用するか、帰りに窓口に寄り申請をする。

5. **資金調達**は本当に必要であるか議論と吟味をし、
判断に迷う時は専門家に助言をもらうなどして決定
し、必要であれば来年度予算を取って、翌年以降実
施する。

6.知立市はまちづくり委員の**定員を確保**すること
に努め、委員に活動の負担を強くないようにする。
多ければ、調達不足の場合は職員の協力者もあたる。

7.会議には**議事録**を取る目的と、助言や確認を求められたときのみ発言するために、事務局が1名参加すること。原則事務局は記録係に徹し、議論や研究には参加しない。

8.委員は、知立市民の代表者として研究に携わり、
「市民主体の研究組織」であることを念頭に、「市
民でできるまちづくりの創造」に努める事。任期中
は欠席や遅刻や役割分担の放棄などがないよう最大
限努力し、積極的に活動をすることで、委員間の
負担を平等に分担するように努める事。